

令和5年度熊野古道協働会議・第2回分科会 発言要旨

日時：令和5年12月27日（水）10時～12時

場所：三重県立熊野古道センター 小ホール

*事務局において、意見交換での発言要旨を内容ごとにまとめました。

「○印」は参加者からの意見、「●印」はその意見をふまえた意見交換・質疑応答のまとめです。

【持続可能な保全体制の構築】

- 保全団体と行政との連絡が十分に取れているのか、疑問を抱いている。
- 一部の教育委員会は出席しておらず、ほとんど理解されていない状況だと思う。市町教育委員会に働きかけを行っていかないといけない。
- 市町、県、国と協議しながら保全・修繕等を行っていく必要があり、保全団体と行政が連携することは欠かせないと思う。引き続き各市町文化財保護部局の担当者には出席の働きかけを行い続けていく。

- 目標の保全活動計画については、主体が保全団体または市町教育委員会のどちらなのかをはっきりさせないといけない。保全団体は、ボランティアが主体的に活動を行っており、状況が変わると活動を続けられない人もいる。管理事務所を作って、プロが全体を見ていき、ボランティアが協力する体制がいいと思う。

- 保全活動は人から人へ伝えるのではなく、マニュアルを作って伝えていくべきであり、それが文化を守ることだと思う。

【担い手確保】

- 地域の小中高生に保全活動を体験してもらってはどうか。子どもたちに、自分たちの地域には世界遺産があって、保全活動している人がいると認識してもらうことが大事。若い人にも入ってもらえるように、小さい頃から、保全活動が地域の当たり前の活動となる取組が必要だと思う。

- 商工会、商工会議所の青年部と連携しながら、地域貢献として保全活動に関わってもらい、そこから保全団体に入ってもらうことも考えてはどうか。紀北町であれば、アウトドア事業所にも声をかけて、古道歩き客にはアウトドア体験を紹介することで、互いに利益があると思う。

- 保全活動は特定の方の頑張りで成り立っていることを心配している。特定の方に負担が集中しているので、支える人を増やしていきたい。地元の行政関係者や商工、観光関係者にも皆さんと関わってもらい、地域外の支援についても働きかけをしてきたいと思っている。まとめ役の方の負担も減らせる仕組みを考えていきたい。

【資金確保】

- 清掃活動してもらう前には下見を実施するが、下見にも費用がかかるので、ボランティアで持続的にやっていけるのか、疑問に思っている。全体を統括する組織に対して、県からの補助も考えてもらいたい。
- 作業するには、労働賃金のような手当が必要。ボランティアでは続いていかないと思う。紀北町の財政的な支援は素晴らしく、そのような組織づくりが大事だと感じた。
- 頂いている寄附は、東紀州地域振興公社から保全団体への補助金として活用している状況。もう少し支援を募るとなると、全体を統括する組織が寄附を配分したり、全体を管理していけるような形を考えている。
- 保全活動にだけ投資するとマイナスになって成り立たないので、収入源と結びつける組織づくりを考えないといけない。観光業者と連携した活動ができないか。
- 保全活動を観光の目的にできるように、外国人が熊野古道を歩く際に清掃してもらったりしている。旅行会社に働きかけて商品にして、活動時に寄附を頂けるようなシステムを作れるように取組を行っている。

【組織形態】

- 地域の保全団体が活動していくのは当然で、一番大事なことだと思っている。人員が足りない場合等は、エリアごとに組織をまとめて、それを一つにすることに賛成する。
- 各エリアでまとまって、全体を統括する組織がある形がいいと思う。紀北町の事例を参考にしながら、紀南エリアでもできるだけ早く連合組織を立ち上げたい。

【紀北町熊野古道連合会】

- 紀北町熊野古道連合会は、4つの保全団体と、事務局として観光協会、臨海公園の管理組合が入っている。会議に紀北町の担当部署の方に出てもらい、活動内容等をお互いに認識しながら進めている。
- 事務局が書類の作成をしており、会員は作業に集中できるので、組織の事務局は大事だと思う。
- 会議に参加することで、事前に活動内容を把握し、懸念事項について相談したり、保全団体と行政との顔の見える関係性を構築できている。

【まとめ】

- 組織形態の案で進めていくという意識統一ができた。各市町でどう進めていくのかということを決めるまで話を話し合ってもらい、それを踏まえて、各エリアで話し合うことになる。保全団体だけでなく、行政や関連団体等も含めて議論してほしい。全体を統括する組織についても、県が中心となって議論していきたい。